



# 学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University  
Museum of History

# Museum Letter No.48

発行日 ● 令和4年(2022)3月10日

もくじ

ごあいさつ	1
四谷校地時代の学習院	2
『教学聖訓』／『学習院初学教本』	4
『東洋学』のはじまり—白鳥庫吉と近衛篤磨	5
学習院輔仁会／学習院出身の『白樺』同人たち	6
『白樺』同人たちの揺籃期—明治30年代の学習院と美術	8



『教学聖訓』明治30年頃〔当館蔵〕

## ごあいさつ

学習院大学史料館では、令和4年3月28日(月)から6月3日(金)まで、北2号館1階の展示室で春季特別展「揺籃期の学習院—四谷校地のころ—」を開催いたします。これに関連して5月よりWEB上で、明海大学講師の中嶋諒氏による史料館講座「学習院の東洋学」も配信されます。

これまで特別展では、京都、神田・虎ノ門、そして目白の地における学習院を取り上げてきましたが、今回は、目白に移転する前の四谷校地時代に注目します。この時代には、学則が制定され、独自の教科書が発行され、わが国の東洋学教育の嚆矢ともいえる課目が開設されました。のちに白樺派と呼ばれる学生らが『学習院輔仁会雑誌』の編集等に携わったのも、やはりこの時代でした。まさに揺籃期といえる学習院において、特色ある教育・研究の礎が確立されていく過程や、学生らが残した文化的な足跡をご覧ください。幸いです。

最後になりましたが、展覧会の開催にご尽力・ご協力いただいた一般社団法人 霞会館、学習院アーカイブズ、大学図書館などの関係各位に、心より御礼申し上げます。

(史料館長 水野謙)

## 揺籃期の学習院

### —四谷校地のころ—

幕末の京都に淵源を持ち、明治10年(1877)神田錦町の地に開校した学習院は、校地を虎ノ門、四谷区尾張町へと移転したのち、現在の目白に校舎を構えました。令和4年春、学習院大学史料館では、明治23年から同41年に至る、四谷校地時代の学習院をテーマとした展覧会を開催いたします。

当時、第4代院長を務めていた三浦梧樓は、「学習院学則」を制定するなど教育体制の改革を進めました。華族の地位本分に適した教育を施すため、また軍務に服する志操を養うため、道徳と武課(体育)教育を重視します。天皇の勅語などを集めた『教学聖訓』や、学習院独自の教科書である『学習院初学教本』などが編纂され、日本初の「東洋諸国歴史(東洋史)」課目も設けられました。そして第7代院長近衛篤磨は、華族が従事すべき職務として、貴族院議員と武官のほかには外交官をあげ、その人材育成に力を尽くしていきます。

明治30年代には、校友会組織「学習院輔仁会」の活動が盛んになり、『学習院輔仁会雑誌』には、のちに雑誌『白樺』同人として活躍する志賀直哉・武者小路実篤・木下利玄・柳宗悦らの名を随所に見ることができます。

この展覧会では、当時の教科書や、武者小路らが描いたデッサンなどの教育資料のほか、明宮嘉仁親王(のちの大正天皇)がこの頃に着用していた制服などを紹介いたします。

「揺籃期」ともいえる四谷校地時代の学習院をお楽しみください。

(助教 谷嶋美和乃)